

翻訳文（下線は控訴人ら代理人による。）

ポメロイ法による不妊手術（卵管結紮術）

ポメロイ法は、女性の不妊手術として最も一般的かつ広く行われている術式である。本術
5 式は、産褥期、帝王切開時、あるいは月経間期（インターバル）の不妊手術として、小開腹
（ミニ開腹）または経腔的コルポトミー（腔式切開）のいずれかにより施行することがで
きる。

本手術の目的は、女性の卵管を閉塞させ、妊娠を防止することにある。

生理学的変化 卵管不妊手術のすべての方法において、月経過多・不正出血
10 （menometrorrhagia）の発生が報告されている。その頻度は研究（症例集積）によって異な
る。月経過多・不正出血を引き起こす正確な生理学的変化は、現時点では明らかになって
いない。卵管の結紮が卵巣への血流を減少させる、あるいは変化させるという理論は、い
まだ証明されていない。

注意点 卵管のループ（knuckle：折り曲げた部分）を結紮する際には、永久（非吸収性）縫
15 合糸よりも 0 号の合成吸収性縫合糸を用いるほうが望ましい。卵管の両断端が永続的に近
接した状態で保持されると、縫合糸が吸収された際に両端が離れる場合と比べて、再疎通
（recanalization、再開通）が生じる可能性が高くなると考えられる。

手技 患者を仰臥位にし、横切開または正中切開により腹部を開く。バブコック鉗子で卵管
を把持し、挙上する。

20 卵管のループ（折り曲げた部分）を 0 号の合成吸収性縫合糸で結紮する。

ループを剪刀（はさみ）で切断する。腹部を層ごとに（層々に）縫合閉鎖する。

以上